

地域を支える 民生委員委嘱状交付式

民生委員、児童委員は、地域住民の立場に立って相談に応じ手助けを行ったり、子どもの見守りや子育ての相談などをするため厚生労働大臣、県知事から委嘱されるものです。



2月8日、大野さおりさんが民生委員、児童委員の委嘱状交付を受けました。

立谷市長は「新型コロナウイルス接種に関して区長と協力して取り組んでいただくことになると思います。よろしくお願いします」と述べました。

●新任主任児童委員（山上1区） 大野さおり（☎367428）

●委嘱日 令和3年1月13日
●任期 令和4年11月30日



1月12日、上遠野加代子さんが民生委員、児童委員の委嘱状交付を受けました。

立谷市長は「子どもたちの見守りに関して大変重要な仕事ですので、よろしくお願いします」と述べました。

●新任主任児童委員（日立木地区） 上遠野加代子（☎360157）

●委嘱日 令和2年12月18日
●任期 令和4年11月30日

ズワイガニ初水揚げ

1月14日、相馬の冬の味覚の一つであるズワイガニが今季初水揚げされました。

試験操業として前日の夜に出漁した底引き網船8隻は、14日の朝、松川浦漁港にズワイガニを1・6トンを水揚げ。水揚げされたズワイガニの相馬双葉漁業協同組合による放射能測定検査の結果は不検出で、オスは甲羅の大きさ、メスは成長度合いなどを基準に選別され、全国各地へ流通されました。



相馬双葉漁協

火の用心呼び掛け

市女性消防隊



市女性消防隊の冬季防火広報出発式は1月15日、相馬消防署で行われ、各地区の女性消防隊長など18人が参加しました。

出発に先立ち渡部順子隊長が「コロナ禍においても火災は全国各地で連日発生しており、防火広報は重要な役割を担っています。無火災を目指して、市民に火の用心を呼び掛けていきましょう」と述べ、瀬川隆志相馬消防署長らが、昨年の市内の火災発生状況や、予防消防活動の大切さ、新型コロナウイルス感染症対策に触れながらあいさつしました。防火広報は広報車4台で行われ、市内各地に火災予防を呼びかけました。

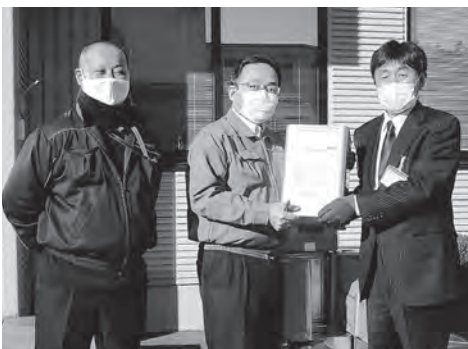
消毒用アルコールなどを寄贈

成田食品グループ

成田食品グループによる消毒用アルコールなどの寄贈は1月18日、同社本社工場で行われました。

寄贈は、県内で新型コロナウイルス感染症の陽性患者が連日確認されていることを受け行われたもの。

佐藤大二郎ナリタファーム株式会社代表取締役社長は「相馬の子どもたちを守るために使ってほしい」と述べ、市教育委員会に消毒用アルコールなどを手渡しました。寄贈された消毒用アルコールなどは、同日中に市内全ての小・中学校に配布されました。



コロナ禍で地方自治を機能させる 日弁連会長講演会

相馬地方市町村議員・幹部職員合同研修会を兼ねた公開講演会は1月13日、市民会館で開催され、相馬地方市町村議員や市民など約160人が参加しました。

地方議員や地方自治体幹部職員が研修を通して地方行政などの認識を高め、地方自治の進展に資することを目的に、相馬地方市町村会が主催。講演会では、本市出身で日本弁護士連合会会長を務める荒中（あらただし）氏を講師

に迎え、「コロナ禍での日弁連の諸活動」地方公共団体との連携を含めて」と題した講演が行われました。

荒会長は「東日本大震災を契機に、日弁連は相馬市との協力関係を築いてきました。災害やコロナ禍の中で、地方自治を機能させるためには市民一人一人が市の取り組みやまちづくりに関心を持つことが重要です」と述べ、コロナ禍での司法や地方自治の役割などを説明しました。



相馬の魅力発信 中一中パンフレット作成



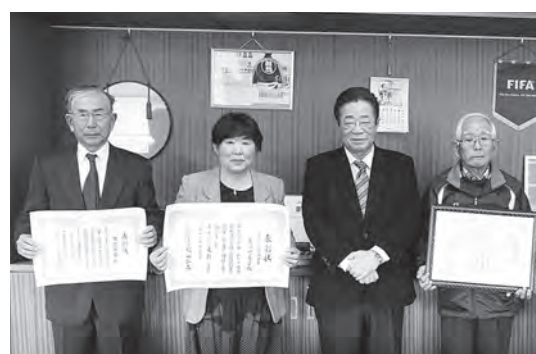
中村第一中学校の生徒が総合学習の時間に作成したパンフレット「Let's Come on!! 感じてみっぺ相馬」の完成報告は1月12日、市役所で行われました。

訪れたのは、佐藤菜々香パンフレット作成環境班代表、篠木美菜子パンフレット作成産業班代表と教員ら4人。

同パンフレットは、同中学校3年生145人が絵や文章など各自が得意な分野で作業を分担し、市内の観光地や相馬野馬追の歴史などを特集したものです。

佐藤さんは「直接、浜の駅松川浦に行って、ドリンクバーチケットの協力をお願いしました。相馬のPRになれば嬉しいです」と述べました。

統計調査に尽力 統計功労者表彰報告



統計功労者表彰報告は2月8日、市役所で行われ、立谷市長に受賞を報告しました。本市で当該表彰を受賞したのは、伊東康夫さん（農林水産大臣表彰）、天沼紀美子さん（経済産業大臣表彰）、渡部長男さん、荒一信さん（県統計協会名誉会長表彰）の4人。

立谷市長は、「みなさん、長期間にわたり調査にご協力いただきありがとうございます。これからも協力よろしくお願いします」とその功績をたたえ、ねぎらいの言葉を述べました。

食への関心を高める 食育標語表彰式

「親子で考えよう！食育標語」表彰式は2月4日、市役所で行われ、入選者11人が訪れました。

この取り組みは、保護者と子どもが一緒に食について考え、家族と語りながから食に対する興味・関心を高めることを目的に実施。

市内全ての小・中学校を対象として行われ、小学校1、3・18点、中学校788点の応募の中から、入選作品を選定しました。

福地憲司教育長が「この取り組みを、家族と家庭での食を考えるきっかけとしてほしい」とあいさつし、入選者一人一人に表彰状を手渡ししました。



百歳おめでとう 菊地ヨシエさん

百歳を迎えた菊地ヨシエさん（原釜）への賀寿贈呈は1月26日、自宅で行われ、ヨシエさんに記念品などが手渡されました。

贈呈されたのは、県知事賀寿と記念品の木杯、市長賀寿と記念品など。

家族や親戚などが、ヨシエさんの長寿を祝いました。

ヨシエさんの長寿の秘訣は、

散歩で体をよく動かすことや、小豆などの豆類を好んでよく食へることです。



郷土相馬の味を楽しむ 中一小

市教育委員会は、全国学校給食週間に併せて、県内特産品を使った給食の提供をしま



した。

中村第一小学校では、1月27日、相馬産の小ガレイを使い「小ガレイを上手に食べようコンテスト」を実施し、児童346人が参加しました。

同コンテストは、相馬の郷土料理の味を通して、郷土愛を大切にするこや魚の上手な食べ方を覚えることを目的に開催。

当日は、給食時間の終了後、各クラスの食卓にコンテスト方式で食べ終わった小ガレイの骨を集めて観察し、魚の上手な食べ方を学びました。

命を守る方法を学ぶ 磯部小避難訓練



磯部小学校避難訓練は1月21日、同小学校で、全校児童31人を対象に行われました。

災害に関する理解を深め、安全、迅速、冷静に避難できる能力と態度を身につけることを目的に実施。

訓練は事前に児童に知らせず、地震による校舎内の火災発生を想定して行われました。地震発生の放送を受けた児童らは、防災頭巾をかぶり机の下に隠れ、火災発生の追加指示で校庭に避難しました。

齋藤和彦同校長は「本日の災害もいつ起きるか分からないため、危機意識をもって行動することが大切です」と述べ、児童らに日ごろの訓練の重要性を伝えました。

藍染ウールストールが金賞受賞 スマイルワーク

第23回授産施設新製品（商品）開発コンクール受賞報告は2月10日、市役所で行われ、社会福祉法人スマイルワークの佐々木政喜理事長ら4人が訪れました。

同コンクールには県内26施設から、食品の部16点、布製品などの非食品の部24点の新製品が出品され、非食品の部でスマイルワーク制作の「藍染ウールストール」が最高賞の金賞に選ばれました。



新エネ大賞受賞 市スマイルコミュニティ事業

の地域共生部門で、株式会社IHIと本市、パシフィックパワー株式会社が光陽地区で実施している「地域の再エネ最大利用を目指した相馬市スマイルコミュニティ事業」が1月26日、最高賞の経済産業大臣賞を受賞しました。

地域共生部門は今年度新設され、同事業が、震災復興に向けた自治体と民間によるエネルギーの有効活用、災害対応や他地域展開などを期待できる点が高く評価されました。



一般財団法人新エネルギー財団の令和2年度新エネ大賞

防災マップ受賞報告

●川原町児童センター

川原町児童センターの放課後児童クラブみつぼちクラブは2月9日、同児童センターで、第17回ぼうさい探険隊マップコンクールの日本ユネスコ国内委員会会長章を受賞したことを報告しました。

同児童クラブは毎年「みつぼち防災探険隊」を結成してマップ制作に取り組んでおり、今回は防災をテーマに設定。

外国人向けの避難所マップの必要性を提案するため、昨年10月ごろから約1カ月をかけ、英語併記のマップを完成させました。

外国人も視覚的に理解できるように工夫したことが評価され、今回の受賞となりました。



●西部子ども公民館



西部子ども公民館の放課後児童クラブこすもすクラブは2月12日、同子ども公民館で第17回ぼうさい探険隊マップコンクールで審査員特別賞を受賞したことを報告しました。

同児童クラブは毎年「こすもす探険隊」を結成してマップ制作に取り組んでおり、今回は防犯と交通事故をテーマに設定。

マップ制作に取り組んだ児童らは、危険な交差点や信号のない場所、街灯が少なく防犯上危険な場所などを分かりやすく表現したほか、マップに地域の方への提言を盛り込んだことが評価され、今回の受賞となりました。

コロナ禍での差別を無くす

向陽中生徒会

向陽中学校生徒会によるシトラスリボン贈呈は2月1日、市役所で行われ、寺島梨々花生徒会長、埴渥太同副会長、波多野佑子同副会長が訪れました。

同生徒会は、新型コロナウイルス感染症に対する差別や偏見を無くすためにできることを考え、全生徒305人で手作りのシトラスリボン制作を決定。

シトラスリボンは、コロナ禍で生まれた差別や偏見を耳

にした愛媛県の有志が立ち上げたプロジェクトで、リボンの3つの輪で地域、家庭、学校（または職場）を表し、リボンを身に付けることでコロナ禍での差別を無くす呼び掛けをするものです。

当日は、寺島会長が「シトラスリボンで、新型コロナウイルス感染症に感染した人への誹謗中傷が無くなるよう呼び掛けていきたいです」と述べ、立谷市長にシトラスリボンを贈呈しました。



市の防災への取り組みを学ぶ まちづくり出前講座



まちづくり出前講座「相馬市の防災について知ろう」は1月28日、中村第二小学校で行われ、同校3年生の児童54人が参加しました。

同校は学校全体で防災学習に取り組んでおり、3学年以上は総合学習の時間を活用し、これまで防災施設や避難場所の見学、震災語り部の方の話を聞くなどの学習を行っています。

今回は市が取り組んでいる防災活動などを知ること、これから自分たちができることは何かを考えることを目的に出前講座を受講。

講師として訪れた市職員が市の取り組みに関する説明や防災に関するクイズなどを行いました。

児童らはメモを取りながら真剣に説明を聞くとともに多くの質問を行うなど、防災への知識を高めることができました。